

## 特別天然記念物ニホンカモシカの救出

～かくかくしかじか～

令和2年7月23日に岩手県にある釜石海上保安部所属巡視船きたかみ乗組員、濱田諭主任通信士、昆武志航海士、草野陸弥機関士補、大久保蓮機関士補の4人で当部管内管轄の陸行取締に出発、また海の事故ゼロキャンペーン期間中につき、夏休みや4連休初日に合わせて帰省中の家族連れやシーカヤック体験会でライフジャケット着用や落水注意の安全指導を実施していた。

各漁港をまわり時刻も1600を回ろうとしていた頃、次が時間的に外回り最後ときめた岩手県唐丹（とうに）漁港の安全指導で100人達成を喜んでいると、何やらざわついている状況を察知、原因と思われる方向へ目をやると、三角テトラポットの中に大きさがゴールデンレトリバーほどの動物が海水に浸かりブルブルと震えているのを発見した。最初は鹿？と思ったが、なんと特別天然記念物に指定されているニホンカモシカ（以下 カモちゃんという。）だと判明。「私たちがつく直前にすぐ後ろの竹やぶから転がり落ち、たくさんの釣り人に驚いて、そのまま防波堤を飛び越えて海に飛び込んだ。」とのこと。

テトラポットに落ちたカモシカ



試行錯誤している様子

ぞき込む人などに対し注意喚起等を実施した。しばらくして担当者1人が到着した。ちょうどこの日は休日。通常は3人だが来たのは1人、日没も近いこともあり協力して救出作業を開始することにした。

作業開始15分後、カモちゃんと格闘するうちに、手前に出てきてくれたので、これを生かさねばと、筋肉自慢の若手1人がカモちゃんの角を押

とりあえず、状況を陸上へ報告、教育委員会担当者（以下 担当者という。）が現場へ派遣となった。担当者到着まで、取締班4人でお尻をおしたり、試行錯誤思いつくままにやってはみたがどんどん奥へ嵌っていくばかり。素人4人は無力さを悟り、カモちゃんも自力であがれない様子から、の

救出状況①



さえ、さらに1人が胴体と足を押さえているところ、担当者が前足と後ろ脚をグルグル巻きに。カモちゃんの動きを封じ込めた。暴れるカモちゃんを筋肉自慢の若手2人をもってしてやっと抑え込むことができた。野生の力に改めて驚かされる。



救出状況②

ここからは、力を合わせ引き上げ。1歳前後で約30kgだというカモちゃん、下から3人で持ち上げ、上から2人で引っ張りようやくテトラポットから救出した。この時点でもう汗だくだ。



救出状況③



救出状況④

救出後は、カモちゃんを車にのせ、担当者とともに近くのダム裏手の森へ。森の奥まで運びロープを解いて、目隠しを外すと元気よく森へ返っていった。担当者からは、野生のカモシカはダニが付着している可能性もあるので、服は洗濯して乾燥機にかけ、40度以上の湯船に浸かるようにいわれ、血液による感染症も要注意ということだ。



森へ返す様子

本事案、全員が初体験であったことは言うまでもなく、救出開始から約2時間、日没までに無事任務を完遂でき、1つの命を救うことができたことは、この上ない達成感を得るとともに、まじかでカモシカに触れあえる(たわむれる)レアな体験ができ、みな誇りに思っている。このノウハウは後世に語り継いでいかなければなるまい。